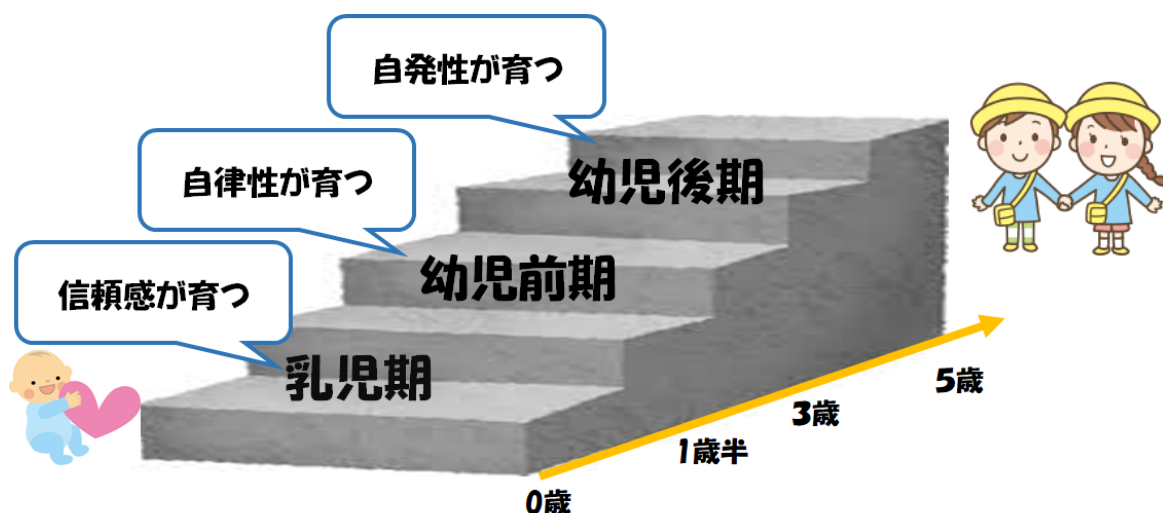


乳幼児期の子どもの発達と関わり方

2020/8/28

子どもにはいくつかの発達段階があります。発達段階とは、子どものからだやこころの成長の段階のことです。この発達段階に合わせた課題を達成していくことや、子どもの発達段階を知っておくことで、お子さんとのコミュニケーションを取りやすくなります。今回は特に乳幼児期についての発達段階と、発達段階に合わせた関わり方のヒントについてお話したいと思います。



0歳から1歳半くらいまでの乳児期は「信頼感」が育つ時期です。赤ちゃんは親や周囲の人に頼らなければ生きていけないので、そのために自分の欲求を泣いて伝えます。そして、親や周囲の人に助けをもらい、愛情を受けることで信頼感を高めていきます。反対に、泣いても誰も助けしてくれないことが続けば、不信感が育ち、その後の発達にも悪影響がおよびます。

1歳半から3歳くらいまでの幼児前期は「自律性」が育まれます。言葉を話したり歩いたりするようになり、成長が早ければ何かを拒否するような反応を起こすこともあります。これまで親や周囲にしてもらっていた着替えや排泄、食事なども自分でできるようになり自律性が育ちます。そうなってきたら自分でやってみる機会を積極的に作りましょう。反対に、子どもに何もさせず親が全てしてしまうと、子どもの自律性は育ちにくくなります。また、チャレンジして失敗してしまったときに必要以上に叱ると、新しいことに挑戦しようという気持ちが弱まってしまいます。

3歳から5歳くらいまでの幼児後期には「自発性」が生まれます。自分から遊ぶものを見つけたり、友達に話しかけたりするようにもなります。自発的に行動するようになったら、間違った方向に自発性を発揮しないように見守りつつ、しっかり反応してあげましょう。子どもの自発性をないがしろにすると、子どもは罪悪感を抱きやすくなってしまいます。

お子さんとの関わり方にお困りの方・お子さんの発達に関して心配な方はご相談ください。

(臨床心理士・公認心理師 児玉 美沙)